



ご入学おめでとう。

「君の内なる
大いなる自己」を
歓迎する



学長

大西昭男

明治二十四年
五月、滋賀県大津市で来日中のロシア皇太子を、警備の任にあたっていた巡査が斬りつける

生した▼事件後、政府は大國公シアの報復を恐れ、犯人を極刑に処すこと等の方策を決定した。ところが当時の刑法によれば、謀殺未遂は最高無期の刑に適用して犯人を死刑に処せられたため、政府は時の大審院長児島惟謙や担当裁判官に対し、大逆罪を強く求めた▼しかし、児島惟謙は大審院長といえども事件担当の裁判官の裁判には干渉しえないとしてこれをりぞけ、担当裁判官に対しては政府権力から独立して裁判をなすべきことを説き、結局、犯人は謀殺未遂により無期徒刑に処せられたのである▼これが世に有名な大津事件であるが、この判決に対しロシアからは何の抗議らしいものもなく、かえってヨーロッパ先進国の中には日本本の裁判官を称賛するものもあつたといわれている▼さて、所謂リクルート事件は、NTT前会長が逮捕され事態の一層の進展をみた。捜査がさらに「巨悪の本丸」に及ぶかどうかは、日本国民が固唾をのんで見守っているだけでなく、「経済大団日本民主主義の成熟度をはかる試金石」として、世界が注目しているともいわれる「新入生を歓迎すべき本學のこの欄で、疑獄事件に触れなければならないのは残念である。また、大津事件を単純に司法権独立擁護の美華として称賛するのは危険であることも承知している。しかし、大津事件から約百年を経た今日なお、「正義を権力より守る」ことができるかを児島惟謙との因縁から関西大学への新入生諸君とともに見守りたい。

こうして、わが関西大学の一員となられた諸君の一人ひとりに、関西大学を代表して、心から祝福・歓迎の意を表したい。

あたかもよし、平成元年。やがて振り返ってみて、諸君が、輝かしい生涯に大きく一步を踏み出した初めの年であつたということになるだろう。大学生と呼ばれるものになつた日のことを、諸君は生涯忘ることはないだろう。ご両親をはじめとして、周囲の人たちの君を見る目が、突然に変わる。友人と言葉を交わしたり、知人に挨拶している自分の声に、われ知らず、自信のようなものが加わっていることに気付く。

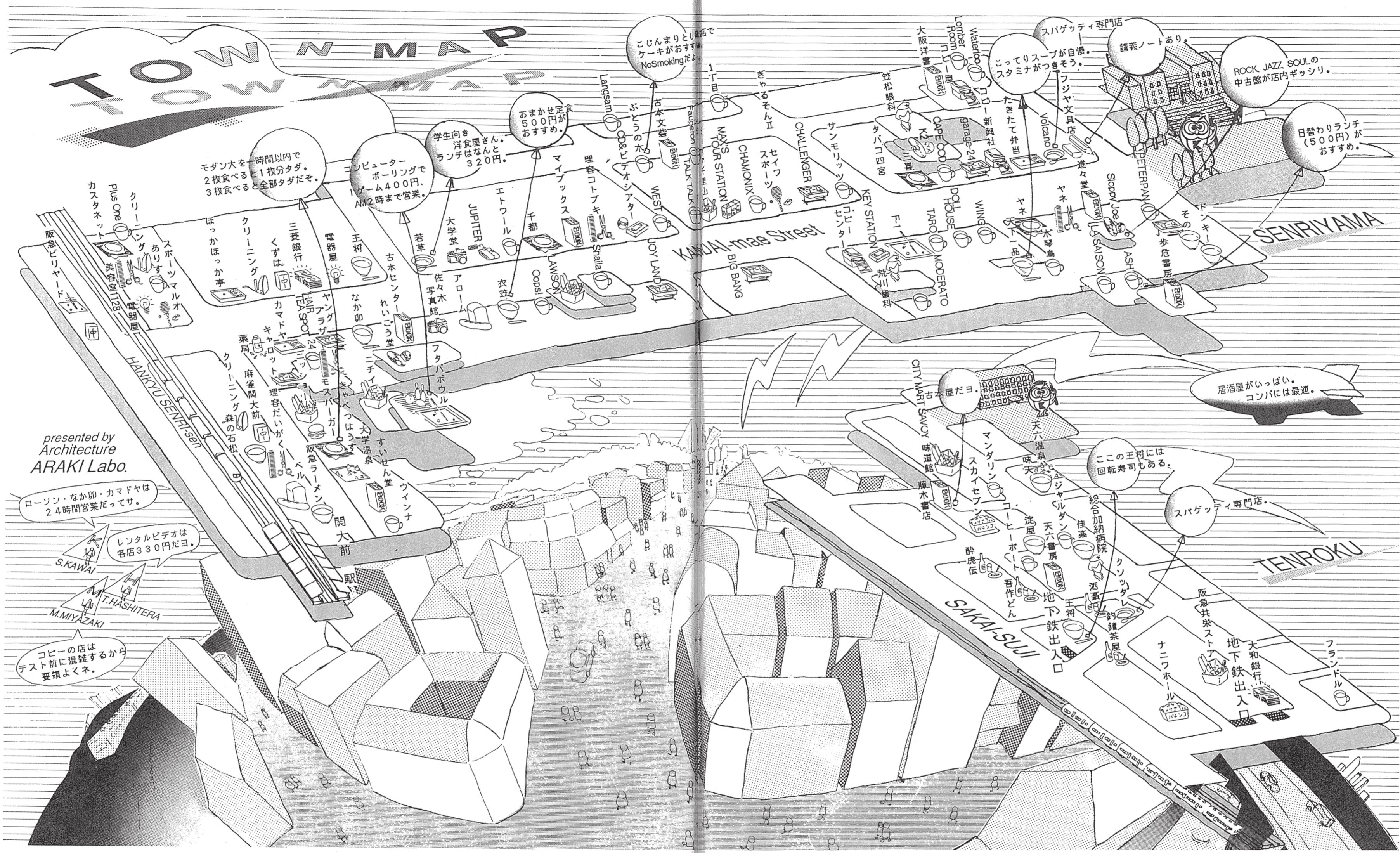
諸君のその自信をこそ歓迎したい。自己過信であつてもいい。過信もまた青春の特権だ。諸君の中には、私が初めに「わが関西大学の一員となられた」と言つた時に、いや自分が関西大学の一部分になつたのではない、関西大学が自分の一部分になつたのだ、とひそかにつぶやいていた人がいるかも知れない。その通りである。諸君の内なる「大いなる自己」は、はかり知れない質量をもつた大きな存在なのだ。「力は山を抜き、氣は世を蓋う」と言えるほどのエネルギーを秘めているのだ。その「氣」が未だ発動していないだけのことなのだ。その未発動の「氣」をこそ歓迎したい。

抜山の力を持ち、蓋世の勇を持つ大才も、あの入学試験のために心細翼々として誤り無からんことを期さねばならなかつた。試験する側も、試験される側も、互いに不本意なことであつた。しかし、これからは違う。今日この日からは、大きな志を高くかかげて突き進むことができる。机にかがみこんでいた背を直ぐ伸ばして、眼を高く遠く放つて、大きく問うことができる。諸君はこれから、友に、師に、そして書物に向かって、怖めず臆せず、問い合わせができる。「松のことは松に問え。竹のことは竹に問え」と芭蕉翁も言われた。事々物々に諸君は問い合わせるべきである。「一日の長」あるを以て先生と呼ばれる立場の私たちも、諸君の問い合わせを返すことはできないかも知れない。一問に対しても必ず一答が用意されているわけではない。答えのありえない問い合わせもありうる。問い合わせを重ねて、飽くなく追求して行くこと、それが学問なのである。問い合わせを見つけ出し、問い合わせをつきつけて行く習慣をこの学生時代に身につけていくつてほしい。こんなに自由に考えることのできる時期は、おそらく諸君の生涯に二度とやつては來ない。この時期に培つた思考の習慣が諸君の生涯の宝となる。

先頃、文化勲章受章の栄に輝かれた本学の名誉教授、末永雅雄博士は、お小さい頃、お母上から「家の内の財は尽きるとも、身の内に積んだ財は尽きない」と学問の道へと励まされて、刻苦勉励して日本の考古学の最高峰を極められた。諸君の進もうとする道は必ずしも「学問」の道とは限らない。しかし、学び且つうことによってこの四年間に諸君が体得する思考の方法は、やがて諸君が生涯かけて打ち立てるべき「生き方」の原型となってくれるだろう。方法論一般というような重宝なものはない。一人ひとりが自らつかみ取つて行くべき、その人独自の方法があるのみだ。そして、その人独自の「生き方」があるのみだ。

諸君の生き方へと展開して行くべき諸君それぞれの方法は、教室や研究室でだけ会得できるものではない。書物との、友との、師との出会いからこそつかみ取つて行くべき、その人独自の空気を吸つてほしい。この自由な空気の中で、諸君の胸の内の「大いなる自己」を大きく羽ばたくかもしれない。

諸君の胸いっぱいに、咲き誇る花の香とともに、わが関西大学の何よりの宝である「自由」の空気を吸つてほしい。この自由な空気の中で、諸君の胸の内の「大いなる自己」を大きく羽ばたくかもしれない。



平成元年度行事予定表



中村歌右衛門(三世)錦絵

ことだと見過ごされている。

古典劇は同じ演題がくりかえされ、くりかえし上演されるところに変価があり、演技者のすぐれた芸の力で、同じ芝居が、おもしろくなつたくなる。芝居を見るだけでも、古典がつねに新しい生命力を持続しているごとく、歌舞伎が今日もなお新鮮な魅力にとどむ大イベントであることは動かぬまい。日本人の文化を考える上で、歌舞伎はじつに重要な研究課題である。海外の心ある人たちが、むしろ歌舞伎の美を敏感に察知しているといつてもよいかもしだぬ。この展観を機会に、歌舞伎の世界に関心を寄せる人が一人でも多くふえてほしいと思うのである。

それは、上方と江戸の劇書であり、役者評判記であり、芝居根本などの類であるのだが、番附以外

このように、関西大学図書館に所蔵する「歌舞伎番附」については、学界ならびに研究者の間で、從来から、その価値が十分にみとめられ、研究調査に大いに利用されてきたのであるが、こうした番附のほかに、図書館にはまだまだ蔵されていることが案外広く知られるにいる。

関西大学図書館には、この歌舞伎
伎番附がじつに大量に所蔵されて
おり、今から三十年以前の昭和三
十五年に、すでに館蔵の「芝居番
附目録」を完成。この道の研究と
調査に多大の寄与を果たしてき
た。いま、国立劇場の手で「近代
歌舞伎年表」の編纂と刊行が進め
られつつあるが、ここでも、関西
大学の歌舞伎番附が、その一翼に
大きな貢献を果たしている。

歌舞伎は、江戸時代にその様式を完成した演劇であり、今日でもなお多くの観客に親しまれ、世界の有識者からも、日本の文化を代表する演劇として、洗練された美しさ・舞台芸術としてのおもしろさを賞賛されている伝統のある古典である。

その発生以来、関連資料を数多くここしてきた中で、とくに「歌舞伎番附」は、歌舞伎芝居の上演される都度に、上演目と配役を記して刊行され、これが、歌舞伎の歴史を考える上で、もっとも重要な史料になっている。

「歌舞伎の世界」について

—第16回展示によせて— 肥田 瞩三

第六章 民族关系与社会——姚西·培生

こんど「歌舞伎の世界」と題して、それらをまとめて図書館展示室で展観することになった。この道に关心を寄せる人たちの歓迎をうけることは今更いうまでもないが、珍しい貴重資料が一堂に陳列されるのはまたと無い好機会であり、学生の皆さんにもぜひ注目して、この「歌舞伎の世界」の展示を観賞してもらいたいと希望するのである。

価をうけているけれども、写楽のあの特長に富んだ画風の先駆となつた。その芸術が、写楽の活躍する直前の上方で大きな開花をみて、いくつものすぐれた芝居者絵本を生み出した。その代表的絵本が、こんどこの展観で、一挙に並べられる。耳鳥斎の「絵本水や空」翠巣の「翠巣芝居戯画譜」、流光斎の「旦生言語」などは、役者百人備「画本にはたづみ」、「役者百人備」、「衆化粧鏡」「絵本兒手巴」「三都好」、「歌舞伎役者の姿絵が展開する。」

のため関西大学図書館に保管されている。展覧に、その中の数点が陳列される。こうした手書き脚本のほかに、大阪では脚本の刊行されたもののが多かった。それらを絵入り根本と呼ぶが、巻頭に色刷の役者絵を入れ、読物としても多くの読者に喜ばれた出版物であった。代表的な数作を展示している。

江戸の劇書も數多い中で、勝田春章の「役者夏の富士」は、そのまま出来ばえのすば抜けたおもしろさで、いわれた力量が十分にうかがわせる。狂歌評判俳優風(は)天明狂歌の作者たちを歌舞伎芝居に目

受け入れ	滞在目的
本の哲学研究の現状と発展方向（現代東方面の哲学に関わる研究も含む）についての調査・研究	関わる哲学理論と唯物史観的研究（人の本質、異化、自由、価値、未来等含む）について、意見交換をする
鎮企業	

後
学術文庫

能率研磨及びグラインダーについての研 究	気炉製鋼及びそれに関わる技術（超高率 一ク炉、偏心炉底出鋼電気炉、直流アー 炉等）についての研究

・研究活動計画
同研究 学研究科の大学院生対象に集中講義 講演会を開催
会にて意見交換
は、別 授等招 交流協 「国

講演会 資料収集 て現地調査並びに行政機関からの聴取	国際交流の促進と充実への方針のもと定校との教員相互派遣事業ならびに事業の本年度計画で現在決定表のとおりである。
研究	
究等) の担当 象の講演会 陥学会にて研究発表	
る) 数回 究機関との交流研究会、中小企業・行	
	(国)

「ノロジーの現況」について講演会 会研究	に招へい教 しているの 際交流課)
における朝鮮語資料の収集	
究 の講演会 研究	
阪南大学 集された 理学の 異なる （イギリ ドバイ、 ペイン、 スラビア （	経済部 「現

教授 小杉 親はか著
大明堂・三八〇〇円

地域政策

先代世界の
子の川島哲郎学長らの編
本書は、我が國の經濟地
主要メンバーの共同執筆
日本および世界の九か国
アーメリカ合衆国、西
フランス、イタリア、
インド、トルコ、エーゴ
が取り組んでいる。地
である。
当性基盤
るとして、
のである。
尊嚴と
の尊嚴を
いる。
また、
「立憲政
い」として、
に在る。同
する。
に最後に
破毀し創
無制限の
いと云ふ
これ
リレーナ

M・クリーレは、その正義を平和と自由と正義であつて、國家に毅然と対することの自由の前提である人間の他人に対しても人の間を承認することに求め、主権概念を詳細に論じ、国家には主権者は存在しないとの主張を通じて憲法の外の國家の観念を否定しようとする。すなわち、個々の場合の手段として現れる法を創造する不可分・無条件の権力を有するものはいなければならぬ、上所述の民主的立憲國家の主張に加えて、M・クリーレは、

本 学 か ら の 派 遣				協 定 校 か ら の 受 け 入 れ			
氏 名	職 名	滞 在 期 間	滞 在 目 的	協 定 校	氏 名	職 名	滞 在 期 間
加勢田 博	経済学部教授	5月下旬から 7月下旬	・工業化の途上にある中国において、輸送の近代化について調査・研究	遼寧大学	郭 国 助	哲学系教授	6月から7月
					李 延 才	経済系副教授	9月から10月
					王 国 祥	高級会計士 財務所長	9月から10月
岸井 貞男	法学部教授	10月から11月	・生成途上にある社会主义国・中国労働立法の現状と問題点の調査・研究 ・日本労働法制の現状と課題(仮題)について講義	復旦大学	交渉中		
野崎 治男	社会学部教授	8月から10月	・「現代産業社会の展開」における問題状況をテーマに講義 ・中国の工業化と都市化の現況について視察・調査研究		交渉中		
平根 喜久	工学部教授	8月20日から 9月20日	・東北工学院の関連教授との技術・研究交流	東北工学院	鄭 煥 文	機械工学科 系教授	10月10日から 11月10日
今西 茂	工学部教授	8月20日から 9月20日	・東北工学院の関連教授との技術・研究交流		武 振 延	鋼鐵冶金系 副教 授	10月10日から 11月10日
横田 茂	商学部教授	9月から10月	・1970年代末から1980年代の合衆国連邦政府財政の変化に関する研究 ・最近の経済構造の変化(産業構造の変化)と公共部門改革の関係に関する日米比較研究 ・地域経済構造の変化と政府間関係の変化に関する比較研究(日米比較) ・上記諸テーマに関する資料収集	ジョージ・ワシントン大学	交渉中		
杉本 隆史	工学部専任講師	5月1日から 7月31日	・「高温高強度のための新しい形状記憶合金」、「A New Shape Memory Alloy for High Temperature Use and with High Strength」の研究 ・L. Delaey, E. Aeroudt教授らとの討議		カトリック・ルーパン大学	交渉中	

平成元年度

学術交流計画決まる

外国人招へい研究者規程にもとづく平成元年度招へい教授(研究員)の招へい計画					
招へい資格	被招へい者氏名・所属	国名	受け入れ機関	招へい期間	受け入れ期間中の教育・研究活動計画
招へい研究員	金英 国立木浦大学 副教授 (法学科)	大韓民国	法学部教授 岸井 貞男	4月7日から7月6日 (91日間)	・労働者の経営参加制度の比較法研究の共同研究 ・韓国の労働法の現状と問題点について法学院生対象に集中講義 ・関係学部の研究者を対象とする研究会・講演会を開催 ・法学院生を対象とする講演会
招へい研究員	安作璋 山東師範大学 教授 (歴史系)	中華人民共和国	文学部教授 大庭 翱	10月20日から12月19日 (61日間)	・関西大学東洋史研究室の居延漢簡の研究会にて意見交換 ・大学院博士前・後課程の演習に参加 ・学部学生を対象とする講演会 ・関西地区的秦漢史研究会にて研究報告
招へい研究員	魏心鎮 北京大学 教授 (地理系)	中華人民共和国	文学部教授 河野 通博	10月1日から10月31日 (31日間)	・中国の園土開発、都市建設に関する公開講演会 ・日本の地域開発、国土総合開発に関する資料収集 ・京阪神地区の開発計画、開発状況について現地調査並びに行政機関からの聴取調査
招へい研究員	Belinda A. Aquino ハワイ大学 準教授	アメリカ合衆国	経済学部教授 鶴嶋 雪嶺	5月6日から6月5日 (31日間)	・日本・フィリピン経済協力に関する共同研究 ・フィリピン問題に関する講義
招へい研究員	宋一 韓国外國語大学 副教授	大韓民国	商学部教授 亀井 利明	4月1日から7月31日 (122日間)	・海事危険管理について共同研究 ・専門科目(損害保険論または商学特殊研究等)の担当 ・大学院生対象の研究交流及び学部学生対象の講演会 ・日本リスクマネジメント学会及び日本保険学会にて研究発表
招へい研究員	Hans J. Pleitner サンクトガレン大学 教授	スイス連邦	社会学部教授 上田 達三	5月1日から5月31日 (31日間)	・学部主催講演会 第1部・第2部各1回 ・教員・院生・学生対象の研究会数回 ・セミナー(学部・大学院の演習を公開する)数回 ・学外研究者との交流(在関西中小企業研究機関との交流研究会・中小企業・行政機関等の視察、公開シンポジウム等)
招へい研究員	Toshi Kaneda アルバータ州立研究所 Research Fellow	カナダ	工学部教授 小幡 齊	4月1日から6月1日 (61日間)	・全学部生を対象とした「欧米のバイオテクノロジーの現況」について講演会 ・大学院生・学部生対象の研究会及び講演会 ・「水核活性物質」の諸問題について共同研究
招へい研究員	鄭光 徳成女子大学 副教授	大韓民国	東西学術研究所 文学部教授 泉 一	9月21日から12月20日 (91日間)	・倭字証官(司証官)の研究について日本における朝鮮語資料の収集 ・東洋研紀要への寄稿 ・対馬藩朝鮮語通事の研究について共同研究 ・研究所研究員・大学院生・文学部生対象の講演会 ・「日中語い交流の史的研究」班との共同研究

M・クリーレ著
法學部助教授 吉田栄司
『平和・自由・正義』
——
〔國家學入門——〕
〔御茶ノ水書房・八〇〇円〕
ほか訳

過程と当面する課題を具体的に解できるし、またある程度比較察しうる点で非常に有益である。さらに何が何にいては一九二年以来の各全國総合開発評議會試みた、戦後日本の地域政策についての総論にあたる一章、それで工業立地政策の展開、都市圈整備（小杉教授担当）、農業整備、山村整備に各一章があつて、それぞれ從來の地域開発政策（日本列島改造論を含む）に対するかなりきびしい批判と地域政策改革のための提言を含んでおり、教えられる所が多い。

新刊紹介

経済学部教授 小杉 毅ほか著
『現代世界の
地域政策』
(大明堂・三八〇円)

阪南大学の川島哲郎学長らの
集された本書は、わが国の経済
理学界の主要メンバーの共同執筆
による。日本および世界の九か国
(イギリス、アメリカ合衆国、
ドイツ、フランス、イタリア、
ペイン、イング、トルコ、ユー
スラビア)が取り組んでいる、
地域政策ないしは地域開発政策の
態と、そのかかえている問題点
解明した労作である。これら諸
国には先進国の方に、中進国、
展途上国、社会主义国も包含さ
れていて、経済体制のそれぞれを
見るこれらの国々の地域政策の展

である。M・クリーレは、その正当性基盤を平和と自由と正義であるとして、国家に毅然と対することのできる自由の前提である人間の尊厳、と他人に対してもこの人間の尊厳を承認することに求めていた。

また、主権概念を詳細に論じ、「立憲国家には主権者は存在しない」という主張を通じて憲法の外に在る国家の観念を否定しようとする。——すなわち、個々の場合に最後の手段として現れる、法を破毀し創造する不可分・無条件・無制限の権力を有するものはないといとされる。

これらの主張に加えて、M・クリーレは、上述の民主的立憲国家をアングロサクソン的な法の支配の思想あるいは弁証法的な自然法の思想によって基礎づけようと試みている。

すぐれた邦訳によつて、このような著作が身近になつた。